

蔵外文献木版印刷についての一考察

伏見 英俊

1 はじめに

チベット仏教の祖師たちの著作並びに関連文献は、20世紀に至るまで様々な形で木版印刷が試みられ、直接あるいは間接に今日に伝えられている。このような木版印刷が、祖師の教えを後世に伝え、チベットおよびその近隣諸国に普及させることを一つの目的としていたことは疑問の余地がない。中でも、いくつかの初期の木版本は、後世のチベット人たちによって標準的なテキストとして参照されていたことが確認でき⁽¹⁾、他の木版本もまた同様の目的で使用されていたことは想像に難くない。しかも、木版本を利用することにより、筆写に費やす膨大な労力を軽減し、筆写に伴う誤記を防ぐこともできたことを考え合わせると、木版印刷されたテキストが後世に与えた影響は多大なものであったと言えよう。また、個々の木版印刷プロジェクトに関する記述は、後継者たちの間での祖師の著作の需要、並びに当時の政治的あるいは文化的背景を知る上で、必要不可欠の資料であると考えられる。

チベット蔵外文献の木版印刷について概観することは、もとより容易なことではないが、チベット文化史に於ける木版印刷の重要性に鑑み、本研究では、David Jackson 氏や van der Kuijp 氏などの先行研究を参照しつつ、筆者が Sa-skya 派研究の一環として収集してきた資料を基に、極めて限られた内容ではあるが一つの試みとして、Sa-skya 派関連のいくつかの木版印刷について考察していくことにしたい。蔵外文献の木版印刷は、Derge 版「Sa-skya 派全書」のように、チベット大蔵経の印刷プロジェクトと密接な関係にある場合が少なくない。しかしながら、蔵外文献の木版印刷は、チベット国内に於ける大蔵経の印刷よりもはるかに早い時期 (ca. 15c. 初) にスタートしていたこと⁽²⁾、しかも、チベット大蔵経については Helmut Eimer 氏を始めとする研究者によって現在研究が進行中であることなどから⁽³⁾、本研究ではチベット大蔵経の印刷プロジェクトを考察の対象としては直接取り上げなかった。

2 チベットに於ける初期の木版印刷

チベットに於いて、いつ頃から木版印刷が行われていたかについては必ずしも明らかではないが、現在までのところ、15世紀の初め以降のことではないかと考えられている⁽⁴⁾。年代が記録されている初期の木版本の例としては、チベット撰述文献ではないが、1419年の *Guhyasamājatantra* と *Pradīpoddyotana* の木版印刷が挙げられる⁽⁵⁾。また、チベット撰述文献の木版印刷としては、1426年の Tsong-kha-pa の *sNgag rim chen mo* の木版印刷などが知ら

れている⁽⁶⁾。近年の研究によれば、Bu-stonの『仏教史』も1468年には木版印刷されていたとされる⁽⁷⁾。

一方、チベットでは国内での木版印刷に先駆け、hor par ma すなわちモンゴルに於いて木版印刷されたものが、一つの標準的なテキストとして使われていたことがいくつかの文献によって確かめられる。例えば、Sa-skya 寺の高官を務めた Las-chen gZhon-nu-seng-ge (fl. ca. 15c.) は、Sa-skya Paṇḍita (1182–1251) の *sDom gsum rab dbye* の hor par ma を用いて註釈書を著わしたと伝えられる⁽⁸⁾。また、同じく Sa-skya Paṇḍita の *Tshad ma rigs gter* の hor par ma が、Sa-skya 派の学匠 Go-rams-pa (1429–1489) と Shākya-mchog-ldan (1428–1507) によって、それぞれの註釈文献の中で参照されていた⁽⁹⁾。van der Kuijp 氏の北京に於ける調査結果によれば、*Tshad ma rigs gter* 自註の二種類の hor par ma が現存し、その中の一つは、1284年に印刷されたものであるとされる⁽¹⁰⁾。さらに、他の hor par ma の例としては、*Guhyagarbhatantra* を始めとする 28 の Nying-ma 派テキストが元朝の仁宗皇帝 (1285–1320) の支援を受けて木版印刷されたことが報告されている⁽¹¹⁾。

木版本が使用される以前のチベットでは、専ら筆写によってテキストが伝承されていたわけで、そこでは、筆写に伴う誤記がテキストを理解する上で問題となることも決して少なくなかったであろう。事実、Chag Lo-tsā-ba Chos-rje-dpal は Sa-skya Paṇḍita に宛てた書簡の中で、自分の手に入れた *sDom gsum rab dbye* の写本は誤記が多いので、正しい写本を送って欲しいと依頼しており⁽¹²⁾、写本の誤記が当時のチベット人たちにとって、深刻な問題となりつつあったことが窺われる。このような事情もまた、チベットに於ける木版本の出版を促す要因となったのではないかと考えられる。

3 祖師の木版印刷——15世紀の Sa-skya 古版——

祖師の著作を木版印刷することは、祖師の教えを広めるという宗教的意義から様々に試みられてきたと考えられるが、ここでは、Sa-skya 古版を中心として、初期の木版印刷について見て行きたい⁽¹³⁾。

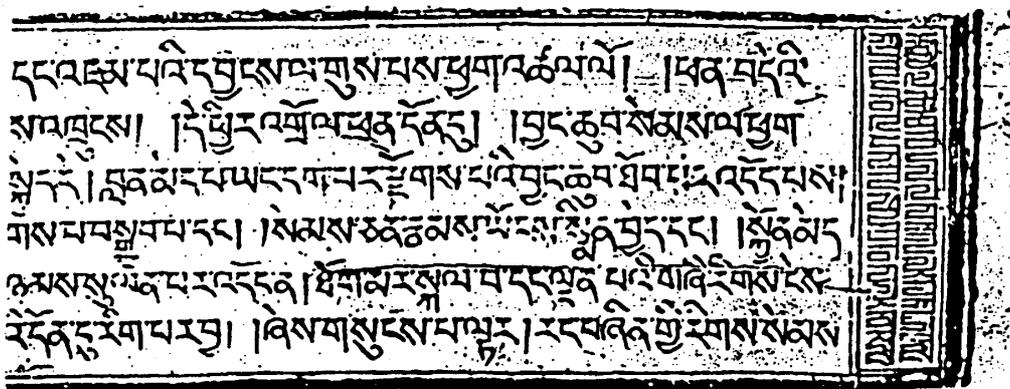


図-1 *Thub pa'i dgongs gsal* の Sa-skya 古版 (fol. 1 verso of NGMPP L604/3)

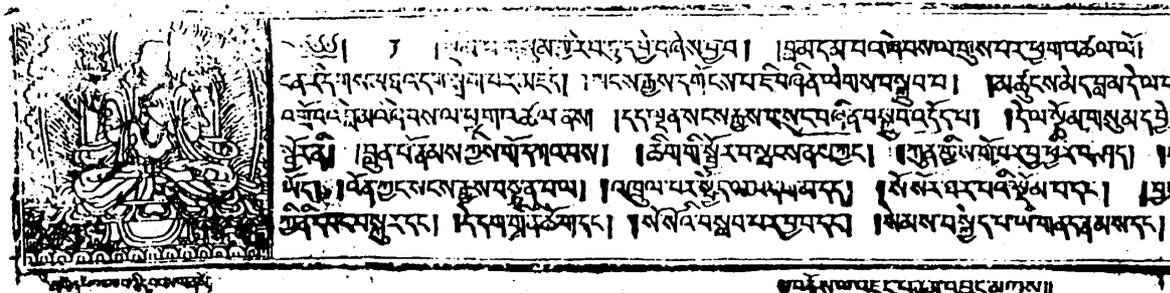
[木版印刷の施主の名前が右端の欄に上から下にパクパ文字で印刷されている：
(1行目) kun dga' dbang phyug blo gros (2行目) rgyal mtshan dpal bzang po...]

図-1 のサンプルは、15 世紀の中ごろ、チベットの Sa-skya 近郊 Lhun-grub-dge-'phel で進められた木版印刷プロジェクトで印刷された Sa-skya Paṇḍita の *Thub pa'i dgongs gsal* の一葉であり、施主の名前がパクパ文字で刻まれている珍しい木版本である。

このプロジェクトで印刷された木版本のうち、現在までのところ、Sa-skya Paṇḍita の 3 つの著作の木版本が存在することが報告されている：すなわち (1) *Sa skya legs bshad* が Patna に、(2) *sDom gsum rab dbye* が Phole と Langtang に、そして (3) *Thub pa'i dgongs gsal* が Patna と Phole に現存する⁽¹⁴⁾。従来、Sa-skya 派研究には 1730 年代に開版された Derge 版『Sa-skya 派全書』が基本資料として使用されてきたが、Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chen (1700–1774) 監修による Derge 版は、必ずしも批判的にテキストを校訂したわけではなく、写本にある誤記をそのまま採用していった疑いがある。したがって、厳密な文献研究には、Derge 版以外の資料をも参照する必要がある⁽¹⁵⁾。中でも、Sa-skya 古版の *sDom gsum rab dbye* と *Thub pa'i dgongs gsal* には、一葉の欠落もなく保存されていたものがあり、しかも、それらは現存する Sa-skya Paṇḍita のテキストの中で最も古い木版本であるため、Sa-skya Paṇḍita の文献学的研究には極めて重要な資料と考えられる。

3.1 *Thub pa'i dgongs gsal* の木版印刷

Thub pa'i dgongs gsal の木版印刷の経緯については、木版本のコロフォンが次のように記述している。Sa-skya 古版 *Thub pa'i dgongs gsal* は、Kun-dga'-dbang-phyug⁽¹⁶⁾ (1418–1462) が若くして死別した父 Ta-dben Gu-sri gZhi-thog-pa Blo-gros-rgyal-mtshan-dpal-bzang-po⁽¹⁷⁾ (1366–1420) の追善供養のために自ら施主 (sbyin bdag) となって、1439 年 (don grub) に木版印刷されたという⁽¹⁸⁾。また、木版印刷プロジェクトの他のメンバーについては、Blo-gros-mgon-po が木版用の原本を用意し (yi ge'i zhabs tog)、dKon-mchog-dpal-bzang · Nam-'byung · Sangs-bzang の三人が刻字を担当し、印刷用の木材 (spar shing) は'Phags-od によって準備され、さらに Rin-chen-rnam-rgyal が校閲を担当した (zhus dag) と記録されている⁽¹⁹⁾。そして、この木版印刷の施主 Kun-dga'-dbang-phyug の名前が、図-1 に示しておいたように木版本の第一葉にパクパ文字で印刷されている。このパクパ文字で印刷された部分は、多くの木版本に於いては、信仰の対象としての祖師の尊像などが刻まれるのが普通であり⁽²⁰⁾、いったい何故、施主の名前がこのような形で残されたのかということが問題となる。明確な理由は不明であるが、Kun-dga'-dbang-phyug が Sa-skya 派の'Khon 一族の gZhi-tog Bla-brang 出身で、gDan-sa-pa を務めていたことと何らかの関係があるのかもしれない。

3.2 *sDom gsum rab dbye* の木版印刷図-2 *sDom gsum rab dbye* の Sa-skya 古版 (fol. 1 verso of NGMPP L604/1)

[Bottom margin に刻字担当者'Jang-pa Nam-'byung の名前が印刷されている。]

sDom gsum rab dbye は、木版本のコロフォンによれば⁽²¹⁾、Blo-gro-rgyal-mtshan⁽²²⁾や Nam-mkha'-bzang-po を始めとする今は亡きラマたちの意志を全うし (dgongs rdzogs)、Kun-dga'-dbang-phyug⁽²³⁾と gZhon-nu-rgyal-mchog などの長寿を祈願するため、木版印刷されたのである。前述のように、*Thub pa'i dgongs gsal* の木版印刷は、Sa-skya 近郊の Lhun-grub-dge-'phel で 1439 年に完成したと考えられるが、*sDom gsum rab dbye* もまた同じ場所で同じ時期に木版印刷されたのだろうか。残念ながら *sDom gsum rab dbye* のコロフォンには、印刷年代も印刷場所も明記されていないが、*sDom gsum rab dbye* の木版印刷が Kun-dga'-dbang-phyug と gZhon-nu-rgyal-mchog の長寿祈願を一つの目的としていたことから、両者の存命中に印刷が完成したものと考えられる。木版本のコロフォンに記された gZhon-nu-rgyal-mchog という人物は、Ngor 寺の第 2 世 Mus-chen Sems-dpa'-chen-po dKon-mchog-rgyal-mtshan (1388–1469) と共に *Blo sbyong brgya rtsa* を作成した Sems-dpa'-chen-po gZhon-nu-rgyal-mchog のことであつたと思われる⁽²⁴⁾。しかも、Mus-sras-pa rDo-rje-rgyal-mtshan (1424–1498) が gZhon-nu-rgyal-mchog から 1442 年に具足戒を受けたという記録も残されているため⁽²⁵⁾、gZhon-nu-rgyal-mchog は 1440 年代まで存命であつたものと推定される。したがって、Sa-skya 古版の *sDom gsum rab dbye* も *Thub pa'i dgongs gsal* とほぼ同じ時期に (ca. 1440)、Sa-skya 近郊で木版印刷されたと考えるのが妥当であるように思われる。

また、コロフォンには、Sa-skya 派の bSod-nams-rgyal-mtshan⁽²⁶⁾ が *sDom gsum rab dbye* の木版印刷の施主となり、dPal-ldan-bzang-po が木版の責任者 (do dam) などを務めたことが記録されている。さらに、同じコロフォンには、版木への刻字担当者 (spar brkos) として 'Jang-pa Nam-mkha'-'byung-gnas の名前も記録されている。彼の名前は、図-2 に示しておいたように、実は木版本の第一葉の bottom margin にも刻まれており、この人物が *Thub pa'i dgongs gsal* のコロフォンに記録された三人の刻字担当者の一人 Nam-'byung と同一人物であつた可能性が極めて高い。ここで興味深いことは、彼の名前に 'Jang-pa という称号がついていることである。若し、これが「'Jang 地方、すなわち現在の中国雲南省出身の者、ある

いはその末裔」であることを示しているのであれば、版木への刻字担当者が雲南省付近から木版技術をもたらしたことを裏付けることになるが、現時点ではこれ以上のことは言える状況にはない⁽²⁷⁾。

Eimer 氏によれば、刻字担当者の名前が bottom margin に刻まれているのは、初期の木版本の特色であるという⁽²⁸⁾。例えば、15 世紀の木版本と言われる Lam rim 解説書 *sKyes bu gsum gyi lam rim rgyas pa khrid du sbyar ba* には、ほぼ 10 葉ごとに「以上は誰々が彫りました」とそれぞれの刻字担当者の名前が bottom margin に刻まれ、さらにプリントコロフォン (par byang) にも二人の刻字担当者の名前が残されている⁽²⁹⁾。一方、Ehrhard 氏は、宋代の中国文献の木版印刷に関する先行研究を基に、版木に残された刻字担当者の名前に関連して、

- 1) 職人たちが地位などを示す自分たちの名前を記録することが許されていたこと
- 2) 版木へ刻まれた名前は、職人の賃金計算の基礎として役立ったこと

という可能性を指摘している⁽³⁰⁾。中国の木版技術がどのようにしてチベットに伝わったかについては、さらに詳しい調査が必要であるが、少なくとも Sa-skya 古版の *sDom gsum rab dbye* は、bottom margin に刻字担当者の名前が刻まれているという点で、チベットの初期の木版本の特色を持つものと見做すことができるであろう。

3.3 全集の第九巻としての出版計画

一方、プリントコロフォン以外に、marginal notation の中でも重要な記述が残されていて、木版本研究上有益な情報を提供してくれる場合が少なくない。そこで、以下には marginal notation から解釈可能な種々の情報をまとめておくことにしたい。*sDom gsum rab dbye* の Sa-skya 古版の各葉の表の margin には、巻数を表わす文字 ta が記録されていて、この巻が全体の中の volume 9 (ta) として計画されていたことを物語っている。しかし、この marginal notation (ta) が示すように、実際に他の巻が印刷されたかどうかについては、現在までのところ明らかではない。若し、他の巻も印刷されていたとすれば、他の巻にはいったいどんな著作が含まれていたのだろうか。それについて、コロフォンには、施主 bSod-nams-rgyal-mtshan は「Sa-skya 派全書」の木版本を一つ一つ完成するために、まず最初に、*sDom gsum rab dbye* の木版を支援したと記録されているので、この木版印刷プロジェクトは、最終的に「Sa-skya 派全書」の出版を意図していたのかもしれない⁽³¹⁾。他の Sa-skya 派の祖師たちの Sa-skya 古版が見つければ、Sa-skya 古版はチベットに於ける「Sa-skya 派全書」の最初の木版印刷であったということになるであろう⁽³²⁾。

さらに、*sDom gsum rab dbye* の Sa-skya 古版の margin には、巻数を表わす文字 ta 以外に二つの folio 番号、すなわち、チベット数字で表わされた vol. ta 全体の通算 folio 番号 (nos. 21-62) とチベット文字で表わされた *sDom gsum rab dbye* の folio 番号 (nos. 1-42) とが刻まれている。前述のように、Sa-skya 古版には *Sa skya legs bshad · sDom gsum rab dbye · Thub pa'i dgongs gsal* の三つの木版本の存在が報告されていて、しかも *Sa skya legs bshad · Thub*

pa'i dgongs gsal は共に *sDom gsum rab dbye* 同様、margin に巻数を表わす文字 *ta* が記録されている⁽³³⁾。したがって、これら三つの著作は、同一ボリューム (vol. *ta*) に収められるべきものとして、木版印刷計画が進められていたことがわかる。*Sa skya legs bshad* の margin には、数字と文字で 19 までの folio 番号が付されているので、vol. *ta* の最初のもは *Sa skya legs bshad* であったと考えられる⁽³⁴⁾。そして、*sDom gsum rab dbye* の vol. *ta* 全体の通算 folio 番号 (nos. 21-62) から判断して、*sDom gsum rab dbye* が vol. *ta* の二番目に配置されるべく印刷されたと考えて問題ないであろう。一方、*Thub pa'i dgongs gsal* の margin には、文字で書かれた folio 番号 (nos. 1-83) のみが記されていて、vol. *ta* 全体の通算 folio 番号の欄は空白のままになっているので⁽³⁵⁾、*Thub pa'i dgongs gsal* の vol. *ta* に於ける配列が明らかではない。この空欄は、*Thub pa'i dgongs gsal* の版木を作成する段階では、何らかの事情で vol. *ta* 全体の通算 folio 番号が刻字担当者に知らされていなかったため、後で通算 folio 番号を刻むことができるように、空白のままにしておいたのではないかと解釈することも可能かもしれない。

3.4 Gong-dkar-ba 版

Sa-skya 古版以外の Sa-skya 派関連の初期の木版本としては、Sa-skya 派の祖師の著作集からなる Gong-dkar-ba 版の存在が報告されている。この Gong-dkar-ba 版は、Gong-dkar-rdo-rje-gdan-pa Kun-dga'-rnam-rgyal (1432-1496) が施主となり、1450 年代に印刷されたものであると考えられている。木版印刷プロジェクトのメンバーとしては、校閲責任者 dPal-'dzin-bzang、刻字担当者 mGon-po-dpal · bZod-pa-'phel · Nam-mkha'-chos-kyi-dbyings などの名前が個々のプリントコロフォンに刻まれている。現在までのところ 16 の著作 *bSod-nams-rtse-mo* (6), *Grags-pa-rgyal-mtshan* (2), *Sa-skya Paṇḍita* (6), *'Phags-pa* (2) が木版印刷されたことが確認され、特に、*Sa-skya Paṇḍita* の主要著作のうち *mKhas 'jug* と *sDom gsum rab dbye* がこのプロジェクトで印刷されている点は注目すべきであろう⁽³⁶⁾。

この Gong-dkar-ba 版の重要性は、初期の木版本であるという事実だけではなく、18 世紀の Derge 版『Sa-skya 派全書』の編集者たちが、いくつかの Gong-dkar-ba 版を校合の資料として参照していたことから理解される⁽³⁷⁾。このことは、初期の木版本が標準的なテキストの一つとして後世の木版印刷で参照されたことを示す極めて重要な例であると考えられる。

他に、Shākya-mchog-ldan (1428-1507) 自らプリントコロフォンを執筆した Sa-skya Paṇḍita の *Tshad ma rigs gter* と *sDom gsum rab dbye* が、*Abhisamayālamkāra* や *Pramānavārttika* などのテキストと共に彼のムスタン滞在中の 1474 年に木版印刷されたと考えられる⁽³⁸⁾。事実、それらの木版本のプリントコロフォンが『Shākya-mchog-ldan 全集』(Thimphu, 24 vols.) の中に収められており⁽³⁹⁾、実際に木版印刷されたことと見做すことができるが、現在までのところ、それらの木版本の発見は報告されていない⁽⁴⁰⁾。

4 他の Sa-skya 派関連の木版本

Sa-skya 派の祖師たちの著作は、筆写による伝承に加え、Sa-skya 古版・Gong-dkar-ba 版などの初期の木版印刷本を通じて後世に伝えられ、18 世紀の Derge 版『Sa-skya 派全書』の出現によって集大成されたものと考えられる。一方、Sa-skya 派の註釈家たちの著作もまた、様々な経緯で木版印刷されて今日に伝えられている。以下では、蔵外文献の木版印刷史を考える上で重要と思われるものの中から、Shākya-mchog-ldan (1428–1507) と Glo-bo mKhan-chen (1456–1532) の著作の木版印刷と Derge 版『Sa-skya 派全書』について触れておきたい。

4.1 Shākya-mchog-ldan (1428–1507) の著作の木版印刷

ここでは、実際の木版本としてではないが、現在に伝わる複製本のコロフォンから木版本の存在が確かめられる例を見ておきたい。15 世紀の Sa-skya 派の註釈家 Shākya-mchog-ldan の主要著作のいくつかは様々な機会に木版印刷され、木版本そのもの、あるいはその写本が Thimphu から複製本として出版された『Shākya-mchog-ldan 全集』所収のテキストの原本として採用されていることが、個々のテキストのプリントコロフォンから確かめられる。例えば、

- 1) *dBu ma rnam par nges pa'i chos kyi bang mdzod lung dang rigs pa'i rgya mtsho*⁽⁴¹⁾
- 2) *Tshad ma rigs pa'i gter gyi rnam par bshad pa sde bdun ngag gi rol mtsho*⁽⁴²⁾
- 3) *sDom pa gsum gyi rab tu dbye ba'i bstan bcos 'bel gtam rnam par nges pa legs bshad gser gyi thur ma*⁽⁴³⁾

などの主要著作は、木版印刷時のコロフォンを含んでおり、木版本として流布していたことがわかる。1) と 2) は、中観および論理学に対する Shākya-mchog-ldan の見解を知るために必要不可欠な著作と考えられているもので、両者の影響は単に Sa-skya 派内に留まらず、広くチベット仏教全体に及んでいると言っても過言ではない⁽⁴⁴⁾。3) の *gSer gyi thur ma* は、*sDom gsum rab dbye* の難処に関する Shākya-mchog-ldan の 108 の質問状に対する彼自身の解答であり、後世のチベットに多くの論争を巻き起こした論書として知られている⁽⁴⁵⁾。特に、この *gSer gyi thur ma* は、ムスタン王 bKra-shis-mgon (r. ca. 1460–1489) とその子 brTan-pa'i-rgya-mtsho が施主となって、1483 年ムスタンで木版印刷されたことが、コロフォンと Shākya-mchog-ldan の伝記から確かめられ、ムスタンでの木版印刷を知る上で貴重な資料の一つと考えられる⁽⁴⁶⁾。上述のように、これら三つの文献はチベットに於いて重視された文献であったことから、著作の重要性並びに著作に対する需要といった事情を反映して木版印刷された例と言えよう。また、これらの木版本そのもの、あるいはそれに基づく写本が『Shākya-mchog-ldan 全集』所収のテキストの原本として採用されていたことから、木版本が一つの標準的なテキストとして使用されていたことがわかるであろう。

【Shākya-mchog-ldan 全集】の原本がどのように編纂されて、どのように伝えられてきたかについては、必ずしも明らかではない。【全集】の dkar chag には、30 人の学匠が参画して五ヶ月半をかけて Shākya-mchog-ldan の著作集が写本の形で編纂されたとある⁽⁴⁷⁾。その同じ dkar chag には、Tāranātha (1575–1635) の長寿祈願が一つの目的であったことを示唆する記述も見られるが、詳細については更なる検討が必要である⁽⁴⁸⁾。

また、Sa-skyā 派の歴史家 Dhongthog Rinpoche (1933–) の【Shākya-mchog-ldan 全集の歴史】によれば、チベットでは dGe-lugs 派の弾圧を受けて Shākya-mchog-ldan の著作を入手することができなくなっていたが、ブータンの Shākya-rin-chen (1710–1759) は gSer-mdog-can に於いて自ら願い出て、Shākya-mchog-ldan の完全な著作集の写本 1 セットを持ち帰ったとされる。その著作集が、今日に至るまでブータンの Thub-bstan Bya-rgod-phung-po に保管され、Thimphu から出版された【Shākya-mchog-ldan 全集】の原本になったという⁽⁴⁹⁾。以上の記述について Dhongthog Rinpoche の用いた資料は明らかではないが、確かに Shākya-rin-chen の著わした【Shākya-mchog-ldan 伝】の末尾には、100 を超える詳細な Shākya-mchog-ldan の著作リストが付け加えられているので、Shākya-rin-chen が複製された【Shākya-mchog-ldan 全集】に近い著作集を参照できる状態にあったことは事実のようである⁽⁵⁰⁾。

一方、Glo-bo mKhan-chen (1456–1532) の弟子 Kun-dga'-grol-mchog (1507–1566) もまた、【自伝】の中で Shākya-mchog-ldan の著作リストを記録している⁽⁵¹⁾。しかしながら、このリストは Shākya-rin-chen のものとは異なった配列で、40 数個の著作を載せているに過ぎない。さらに、Sa-skyā 派の Khenpo Appey が Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po (1820–1892) の綿密な文献調査記録などに基づいて編纂した【Sa-skyā 派文献ビブリオグラフィ】にも、Shākya-mchog-ldan の著作リストが掲載されているが、その配列・収録数共に Kun-dga'-grol-mchog のリストに極めて類似している⁽⁵²⁾。Kun-dga'-grol-mchog によって記録された Shākya-mchog-ldan の著作リストが、当時存在した著作集に基づいたものであったとすれば、ブータンに伝わったセットとは別の Shākya-mchog-ldan の著作集が存在した可能性がある⁽⁵³⁾。若し、それらが存在したとすれば、Kun-dga'-grol-mchog の年代から考えて、ブータンに伝わったものより古い時代に編纂された著作集であったかもしれない。

4.2 Glo-bo mKhan-chen (1456–1532) の著作の木版印刷

次に、版木の所在が確認される例として、Glo-bo mKhan-chen の著作の木版印刷を見ておきたい。ムスタン王家出身の学僧 Glo-bo mKhan-chen は、Go-rams-pa・Shākya-mchog-ldan と並び、Sa-skyā 派仏教の隆盛に多大な貢献をしたことが知られ、Sa-skyā Paṇḍita 以降の Sa-skyā 派の教学を語る上で最も重要な人物の一人として数えられる。顕密双方に及ぶ Glo-bo mKhan-chen の著作は大小合わせて三百を超え⁽⁵⁴⁾、特に Sa-skyā Paṇḍita の *sDom gsum rab dbye*・*Tshad ma rigs gter*・*Thub pa'i dgongs gsal*・*mKhan 'jug* などの主要著作に対する註釈文献は Sa-skyā 派研究に必要不可欠の資料と考えられている。

Glo-bo mKhan-chen の著作集は、ネパールの Gelung 写本と東洋文庫所蔵写本の二種の

—蔵外文献木版印刷についての考察—

存在が知られている。一方、Glo-bo mKhan-chen の著作の幾つかは、1940年代に Derge で木版印刷され今日に伝えられる。他に、近年 Nepal-German Manuscript Preservation Project (NGMPP) によって撮影された二つの *sDom gsum rab dbye* 註の木版本が存在する。

1) *sKal ldan snying gi mun sel lha dbang rdo rje*

[= *sKal ldan snying gi mun sel*] . 6 fols. NGMPP Reel no. L167/3. Margin in recto: *ga*.

2) *sDom pa gsum gyi rab tu dbye ba'i dka ba'i gnas rnam par 'byed pa zhib mo rnam 'thag*

[= *Zhib mo rnam 'thag*] . 99 fols. NGMPP Reel no. L167/2. Margin in recto: *kha*.

この二つの木版本は、その形状から同一の木版印刷プロジェクトによるものと思われ、しかも、両者の marginal notation: *kha* と *ga* から、これら二つは同一の『全集』の中の第二・第三の作品として木版印刷計画が進められていたことがわかる。木版印刷の時と場所について、コロフォンの記述からは明らかではないが、チベット各地の木版印刷施設に残る版木を調査した記録である *Three Karchacks* によれば、二つの木版本の葉数と marginal notation に完全に一致する版木が Ngor 寺のプリントハウス (par khang) に存在したことが記録されている⁽⁵⁵⁾。一方、Kaḥ-thog Si-tu Chos-kyi-rgya-mtsho (1880–1925) は、中央チベット巡礼の折、1919年に Ngor 寺を訪れ、当時の様子を『巡礼記』に記している。彼の『巡礼記』には、残念ながら Glo-bo mKhan-chen の著作の版木についての記録は見当たらないが⁽⁵⁶⁾、NGMPP によって撮影された二つの木版本は、Ngor 寺で印刷された可能性が極めて高いものと考えられる。

Glo-bo mKhan-chen は Sa-skyā Paṇḍita の *sDom gsum rab dbye* に対して、少なくとも6つの註釈文献を著わしたと考えられる。そのうち、*sKal ldan snying gi mun sel* は、彼の他の註釈書 *'Khrul spong dgongs rgyan* と極めて類似の形式を取ったもので、*sDom gsum rab dbye* に関する Shākya-mchog-ldan の108の質問によって引き起こされた論争の妥当性を論じることを目的としたものと考えられる⁽⁵⁷⁾。

一方、*Zhib mo rnam 'thag* は、Shākya-mchog-ldan の見解を検討する箇所もあるが、全体として *sDom gsum rab dbye* に於ける難処の解説を最終目的としたもので、*sKal ldan snying gi mun sel* とは異なった視点から著作されていることがわかる。*Zhib mo rnam 'thag* の中では、gzhan stong と rang stong を始めとする多くのテーマが論じられており、Sa-skyā 派の後継者たちの間では、*sDom gsum rab dbye* に対する Glo-bo mKhan-chen の代表的な註釈文献の一つとして位置付けられていたと考えられる⁽⁵⁸⁾。特に、Sa-skyā 派の註釈家 Ngag-dbang-chos-grags (1572–1641) が、Shākya-mchog-ldan の空性理解については Glo-bo mKhan-chen の *Zhib mo rnam 'thag* を参照すべきであると指摘している点は、この註釈書の一つの特徴を物語っているものと言えよう⁽⁵⁹⁾。

4.3 Derge 版『Sa-skya 派全書』（1730 年代）

Sa-skya 派の五祖師 (sa skya gong ma lnga) すなわち Kun-dga'-snying-po・bSod-nams-rtse-mo・Grags-pa-rgyal-mtshan・Sa-skya Paṇḍita・'Phags-paの著作集から成る Derge 版『Sa-skya 派全書』は、Derge 王 bsTan-pa-tshe-rin が施主となって、Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chen を始めとする編纂者たちによって 1730 年代に木版印刷されたものであった。前述のように、厳密な文献研究のためには、Derge 版『Sa-skya 派全書』所収のテキストにも訂正すべき箇所が少なくないが、チベットに於ける Derge 版の権威は、長い間、Sa-skya 派の標準テキストとして使われてきたことから理解される。

実際の編纂作業については、Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chen の「自伝」および Derge 版『Sa-skya 派全書』の dkar chag から知ることができ、その規模と技術力は、以前の木版本をはるかに超えるものであった。Derge 版『Sa-skya 派全書』について、蔵外文献の木版印刷史を考える上で特筆すべきことは、

- 1) 木版本の原本作成のため八種の「著作集 (写本)」を参照していること⁽⁶⁰⁾。
- 2) 他に、Gong-dkar-ba 版の木版本を参照していること⁽⁶¹⁾。
- 3) Ngor 寺第 4 世 Kun-dga'-dbang-phyug (1424-1478) が Kham 地方から取り寄せた稀観本 (Sa-skya Paṇḍita のモンゴルへの随行者 Bi-ji Rin-chen-grags による三つの問答の記録) を収録していること⁽⁶²⁾。
- 4) 綴り字の統一化が試みられていること⁽⁶³⁾。

などの組織的な編纂作業が挙げられるであろう。

5 稀観本の木版印刷

今日に至るまでチベットでは、数多くのチベット人によって、哲学書・歴史書を始めとする種々の著作が著わされてきた。中でも 11-14 世紀の仏教文献は、後世のチベット仏教に多大な影響を与えたことが知られている⁽⁶⁴⁾。しかしながら、それらの文献の中には時が経つにつれて、その経緯は定かではないが、後世のチベット人たちが直接披見することのできなくなってしまった著作も現われた。例えば、Sa-skya Paṇḍita は主要著作の中で仏教の学説分類の詳細については、彼自身の *Grub mtha' rnam 'byed* を参照すべきことを繰り返し述べているが⁽⁶⁵⁾、Sa-skya Paṇḍita の *Grub mtha'* は彼の没後早い時期に失われてしまったものと考えられ、彼の学説分類についての詳細は不明のまま今日に至っている⁽⁶⁶⁾。事実、Glo-bo mKhan-chen は *Tshad ma rigs gter* の註釈の中で、Sa-skya Paṇḍita の *Grub mtha'* は彼の時代には既に失われて使用できる状態にはなかったことを記述している⁽⁶⁷⁾。

一方、チベットでは、後世のチベット人たちが実際に稀観本探索を行ったことも伝えられ⁽⁶⁸⁾、さらに 19-20 世紀には、当時披見することが困難になりつつあった稀観本の木版印刷が試みられている。そこで、最後に、後世の木版印刷の一例として稀観本の木版印刷を取

り上げ、Ris med 運動の一環としての木版印刷と dGe-lugs 派僧を中心としたプロジェクトについて見ておくことにしたい。

5.1 Ris med 運動との関わり

Ris med 運動の一環として、Derge あるいはその近郊で *gDams ngag mdzod* や *Rin chen gter mdzod* を始めとする多くの木版印刷が行われたことが知られている。Blo-gter-dbang-po (1847–1914) による 'Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po (1820–1892) の『伝記』には、'Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po を中心とした稀観本の木版印刷プロジェクトが記述されている⁽⁶⁹⁾。それによれば、このプロジェクトでは、次のような 12~15 世紀の重要な著作が木版印刷されていたことがわかる。

- rMa-bya (ca. 12c.) の『中論註』
- 'U-yug-pa (ca. 12c.–13c.) の『Pramāṇavārttika 註』
- mChims 'Jam-pa'i-dbyangs (ca. 13c.) の『俱舍論大註』
- Red-mdā'-ba (1349–1412) の『入中論註』
- Rong-ston (1367–1449) の『現觀莊嚴論註』と『宝性論註』

しかしながら、個々のテキストのコロフォンには、実際 'Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po ではなく他のメンバーが木版印刷の担当者として記録されており、これらの木版印刷は、'Jam-dbyangs mKhyen-brtse'i-dbang-po の立案によるものであったと言うのが正しいのかもしれない。特に、この印刷プロジェクトでは、12~15 世紀の重要な著作が木版印刷されていたことから、Ris med 運動の目指していた一つの方向性が理解される。

5.2 dGe-lugs 派僧を中心としたプロジェクト——版木校正の痕跡——

次に、20 世紀に於ける dGe-lugs 派僧を中心としたプロジェクトの中から、rNgog Blo-ldan-shes-rab (1059–1109) の『宝性論註』の木版印刷の場合を見ておきたい。Jackson 氏の研究によれば、この木版本は 1916 年から 1918 年にかけて、Klu-'bum dGe-bshes Shes-rab-rgya-mtsho (1884–1968) を校閲担当者として作成されたものであるとされるが⁽⁷⁰⁾、今回、この木版本を取り上げたのは、rNgog の『宝性論註』の木版本が、チベットの木版印刷プロジェクトに於いて、どのように版木の校正作業が行われていたかを理解するための好材料を提供していると考えられるからであった。

図-3 のテキストは、Dwags-po Rin-po-che のプライベートコレクション所収の木版本を複製し Dharamsara から出版されたものであり、手書きによる多くの訂正箇所が含まれている。この出版本の原本は、実は、校正前の版木から印刷されたテキストに、校閲者によって校正箇所が記入されたものであるとされる。それに対し図-4 のテキストは、多田等観氏が請来したもので、校正後の版木から印刷されたものと考えられる。

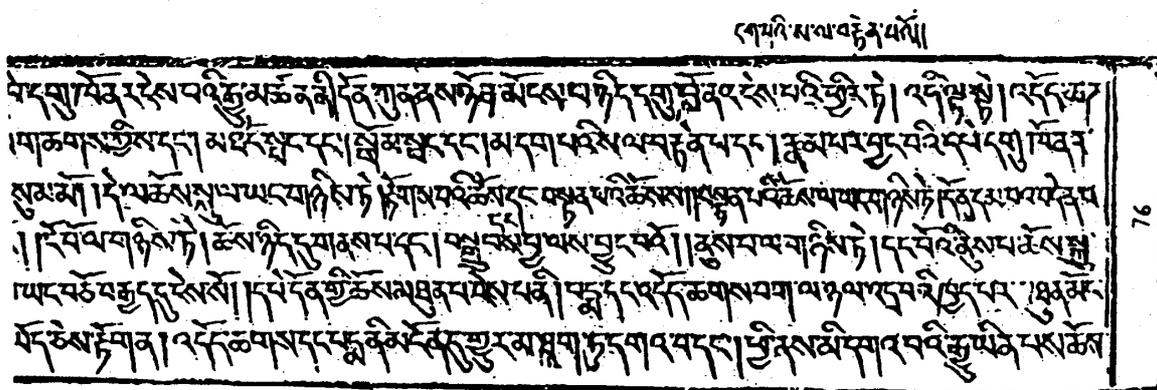


図-3 校正前の版木からの印刷：出版本 (Dharamsara, 1993), fol. 38b (p. 76)

[Dwags-po Rin-po-che のプライベートコレクションからの複製]

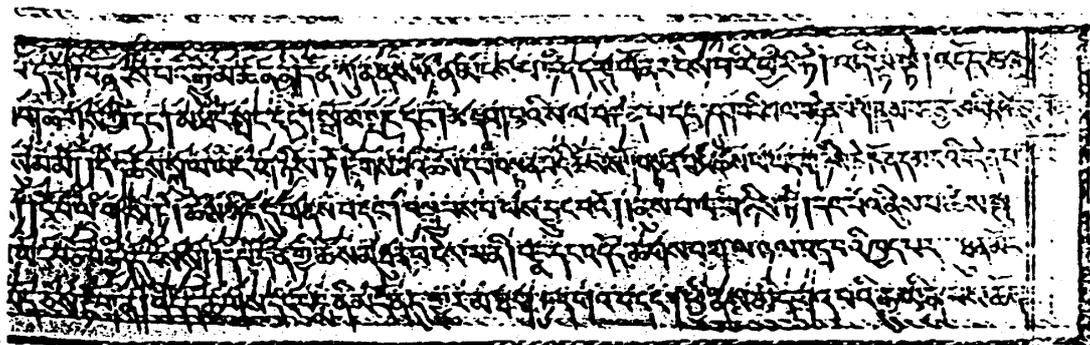


図-4 校正後の版木からの印刷：東北大学所蔵本 (東北蔵外 No. 6798), fol. 38b

[多田等観氏請来本]

Dwags-po Rin-po-che のプライベートコレクションとして伝わるテキストに残された訂正内容が、どのように実際の校正作業に反映されたかについては必ずしも明らかではないが、図-3 と図-4 の 2 行目を比較すると、Dwags-po Rin-po-che 所蔵本に残された訂正箇所を基に校正作業が行われた可能性は否定できない⁽⁷¹⁾。少なくとも、これらの『宝性論註』の木版本は、チベットの木版印刷プロジェクトに於いて、版木の校正作業がどのように行われていたかを理解する上で貴重な資料であると言えよう。また、rNgog Blo-ldan-shes-rab の『宝性論註』の木版印刷の完成が 1918 年のことであったので、多田等観氏は完成後まもなく、このテキストを手にしたことがわかる。

6 むすび

以上、簡単ではあるが、一つの試みとしてサキャ派関連の文献を中心に、蔵外文献の木版印刷について、印刷プロジェクトの概要・木版本の後世への影響といった観点から考察してきた。

—蔵外文献木版印刷についての考察—

木版本研究で最も重要にして、しかも、最も難解な作業の一つに、コロフォンの解析作業がある。特に、コロフォンに刻まれた名前は、一般に知られた名前とは異なる場合もあり、特定の宗派・時代あるいは地域に関する十分な知識がないと、印刷プロジェクトのメンバーを特定するのが極めて難しいと言える。そこで、今回試みたような考察を、多くの研究者が個々の研究分野に基づく種々の情報を持ち寄って行なえば、近い将来、チベットに於ける木版印刷の詳細がもっと明らかになってくるであろう。

参考文献

- Dudjon Rinpoche [= bDud-'joms Rin-po-che] (1991) :
The rNying ma School of Tibetan Buddhism. 2 vols. Boston: Wisdom Publications.
- Ehrhard, Franz-Karl.
 (1997) : "Recently Discovered Manuscripts of the rNying ma rGyud 'bum from Nepal." *Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens* Nr. 21. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, vol. 1, pp. 253-267.
 (2000) : *Early Buddhist Block Prints from Mang-yul Gung-thang*. Lumbini: Lumbini International Research Institute.
- Eimer, Helmut (1996) :
 "Two Blockprint Fragments of Mi la ras pa's mGur 'bum Kept in the Wellcome Institute, London." *Zentralasiatische Studien*, vol. 26, pp. 7-20.
- Fushimi, Hidetoshi (1999) :
 "Recent Finds from the Old Sa-skyā Xylographic Edition." *WZKS*, vol. 43, pp. 95-108.
- Jackson, David.
 (1983a) : "Notes on Two Early Printed Editions of Sa-skyā-pa Works." *The Tibet Journal*, vol. 8-2, pp. 3-24.
 (1983b) : "Commentaries on the Writings of Sa-skyā Paṇḍita: A Bibliographical Sketch." *The Tibet Journal*, vol. 8-3, pp. 3-23.
 (1985) : "Two Grub mtha' Treatises of Sa-skyā Paṇḍita —One Lost and One Forged." *The Tibet Journal*, vol. 10-1, pp. 3-13.
 (1987) : *The Entrance Gate for the Wise (Section III) : Sa-skyā Paṇḍita on Indian and Tibetan Traditions of Pramāṇa and Philosophical Debate*. WSTB, vol. 17, 2 parts.
 (1989a) : *The "Miscellaneous Series" of Tibetan Texts in the Bihar Research Society, Patna. A Handlist*. Stuttgart: Franz Steiner Verlag Wiesbaden.
 (1989b) : "More on the Old dGa'-ldan and Gong-dkar-ba Xylographic Editions." *Studies in Central and East Asian Religions*, vol. 2, pp. 1-18.
 (1990) : "The Earliest Printings of Tsong-kha-pa's Works: The Old dGa'-ldan Editions." In: *Reflections on Tibetan Culture: Essays in Memory of Turrell V. Wylie*, pp. 107-116.
 (1991) : Review Article on the *Sa skyā pa'i dkar chag*, a Bibliography of Sa-skyā-pa Literature. *Indo-Iranian Journal*, vol. 34, pp. 220-229.
 (1997) : "rNgog Lo-tsa-ba's Commentaries on the Ratnagotravibhāga: An Early-20th-century Lhasa Printed Edition." *Beiträge zur Kultur- und Geistesgeschichte Asiens* Nr. 21. Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, vol. 1, pp. 439-456.
- van der Kuijp, Leonard.
 (1983) : *Contributions to the Development of Tibetan Buddhist Epistemology. From the Eleventh to the*

- Thirteenth Century*. Alt- und Neu-Indische Studien, Nr. 26.
- (1984) : "Marginalia to Sa-skya Paṇḍita's Oeuvre." *JIABS*, vol. 7-1, pp. 37-55.
- (1985a) : "On the Authorship of the Gzhung-lugs legs-par bshad-pa attributed to Sa-skya Paṇḍita." *Journal of the Nepal Research Centre*, vol. 7, pp. 75-86.
- (1985b) : "Some Recently Recovered Sa-skya-pa Texts, A Preliminary Report." *Journal of the Nepal Research Centre*, vol. 7, pp. 87-94.
- (1993a) : "Two Mongol Xylographs (*Hor par ma*) of the Tibetan Text of Sa Skya Paṇḍita's Work on Buddhist Logic and Epistemology." *JIABS*, vol. 16-2, pp. 279-298.
- (1993b) : "Apropos of Some Recently Recovered Manuscripts Anent Sa Skya Paṇḍita's. *Tshad ma rigs pa'i gter* and Autocommentary." *BIS*, vol. 7, pp. 149-162.
- Onoda, Shunzo (1992) :
Monastic Debate in Tibet. A Study on the History and Structures of bsDus grwa Logic. WSTB, vol. 27.
- Pema Tsering (1978) :
 "rÑiñ ma pa Lamas am Yüan-Kaiserhof." *Bibliotheca Orientalis Hungarica* 25, pp. 511-540.
- Kun-dga'-grol-mchog, Jo-nang:
rNam thar zur 'debs mdzes rgyan rin po che'i lung yig. In: *The Autobiographies of Jo-nañ Kun-dga'-grol-mchog and His Previous Embodiments*, vol. 2, pp. 534-584. New Delhi: Tibet House, 1982.
Paṇḍita chen po shākya mchog ldan gyi rnam par thar pa zhib mo rnam par 'byed pa. In: *Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 16, pp. 1-234. Thimphu: Kunzang Topgey, 1975.
Zhen pa rang grol gyi lhug par brjod pa'i gtam skal bzang dad pa'i shing rta 'dren byed. In: *The Autobiographies of Jo-na Kun-dga'-grol-mchog and His Previous Embodiments*, vol. 2, pp. 285-534. New Delhi: Tibet House, 1982.
- Klu-sgrub-rgya-mtsho, Mang-thos:
bsTan rtsis gsal ba'i nyin byed. Lhasa: Bod ljongs mi dmangs dpe skrun khang, 1988.
- Go-rams-pa, bSod-nams-seng-ge:
rJe btsun bla ma mus pa chen po'i rnam par thar pa ngo mtshar rgya mtsho. Sa skya pa'i bka' 'bum, vol. 14, pp. 299.1.1-312.1.3. Tokyo, Tōyō Bunko, 1968.
- Ngag-dbang-chos-grags, mKhan-chen:
Bod kyi mkhas pa snga phyi dag gi grub mtha' shan 'byed mtha' dpyod dang bcas pa'i 'bel ba'i gtam skyes dpyod ldan mkhas pa'i lus rgyan rin chen mdzes pa'i phra tshom bkod pa [= Pod chen drug gi 'bel gtam]. Thim-phu: Kunsang Topgyal and Mani Dorje, 1979.
- Dalai Bla-ma V, Ngag-dbang-blo-bzang-rgya-mtsho:
Zab pa dang rgya che ba'i dam pa'i chos kyi thob yig gang ga'i chu rgyun. 4 vols. Gangtok, 1991.
- Blo-gros-dpal-mgon:
'Jam dbyangs bsod nams lhun grub kyi rnam par thar pa. In: *Sa skya pa Lam 'bras bla brgyd kyi rnam thar*, pp. 409-573. Dehra Dun: Sakya Centre, 1985.
- Mus-chen dKon-mchog-rgyal-mtshan:
Chos rje rdo rje 'chang gi rnam thar. In: *Sa skya pa Lam 'bras bla brgyd kyi rnam thar*, pp. 189-325. Dehra Dun: Sakya Centre, 1985.
- Zhu-chen Tshul-khrims-rin-chen:
Chos smra ba'i bande tshul khrims rin chen du bod pa'i skye ba phal pa'i rkang 'thung dge sdig 'dres ma'i las kyi yal ga phan tshun du 'dzings par bde sdug gi lo 'dab dus kyi rgyal mos re mos su bsgyur pa. In: *The Autobiography of Tshul-khrims-rin-chen of Sde-dge and other of his Selected Writings*, pp. 278-638. Delhi: N. Lungtok and N. Gyaltan, 1971.
- A-mes-zhabs Ngag-dbang-kun-dga'-bsod-nams:

'*Dzam gling byang phyogs kyi thub pa'i rgyal tshab chen po dpal ldan sa skya pa'i gdung rabs rin po che ji ltar byon pa'i tshul gyi rnam par thar pa ngo mtshar rin po che'i bang mdzod dgos 'dod kun 'byung* [= *gDung rabs chen mo*]. Beijing: Mi rigs dpe skrun khan, 1986.

[Anonymous]

Gangs can gyi ljongs su bka' dang bstan bcos sogs kyi glegs bam spar gzhi ji ltar yod pa rnam nas dkar chag spar thor phyogs tsam du bkod pa phan bde'i pad tshal 'byed pa'i nyin byed. In: *Three Karchacks*, pp. 169–243.

注記

- (1) Fushimi (1999), p. 102 参照。
- (2) Jackson (1990), p. 107; Ehrhard (2000), p. 11 参照。
- (3) 例えば、Helmut Eimer ed., *Transmission of the Tibetan Canon: Papers at a Panel of the 7th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Graz 1995* 参照。
- (4) 注 (2) 参照。
- (5) Jackson (1990), p. 107 参照。
- (6) Jackson (1989b), pp. 2–5 参照。
- (7) Ehrhard (2000), p. 12 参照。
- (8) Ngag-dbang-chos-grags, *Pod chen drug gi 'bel gtam*, p. 258.2–3. Kun-dga'-grol-mchog は『自伝』 (*Zhen pa rang grol...*, p. 361.2–3) の中で gZhon-nu-seng-ge の註釈を *sDom gsum rab dbye* の「四つの権威ある偉大な註釈書」 (*tshad thub 'grel chen bzhi*) の一つとして記録している。また、同じく Kun-dga'-grol-mchog によれば、gZhon-nu-seng-ge は Ngor-chen Kun-dga'-bzang-po (1389–1456) の弟とされ、gZhon-nu-seng-ge の註釈は、Ngor-chen の三度目のムスタン訪問の折 (ca. 1447)、Ngor-chen が rNam-rgyal-chos-sde での使用を推奨した権威ある文献の中の一つであったという。Kun-dga'-grol-mchog, *Pañḍita chen po shākya...*, pp. 110.7–118.1; Jackson (1983b), p. 15 参照。
- (9) Jackson (1983a), p. 22, n. 17; do. (1987), p. 73; van der Kuijp (1983), pp. 18–19; do. (1993a), p. 284; Onoda (1992), pp. 80–81 参照。
- (10) van der Kuijp (1993a), pp. 279–283 参照。また、van der Kuijp (1993b), p. 150, n. 4 によれば、2つの hor par ma のうちの一方は、1284 年の木版本の部分的なりプリントであるかもしれないとされる。
- (11) Pema Tsering (1978), p. 538; Dudjom Rinpoche (1991), vol. 1, p. 669; Ehrhard (1997), pp. 262–263, n. 23 参照。
- (12) Sa-skya Pañḍita, *Chag lo'i zhu ba*, p. 408.2.4–6. Jackson (1987), p. 71 参照。
- (13) 本稿では、Sa-skya に於ける後世の木版本と区別して、特に「Sa-skya 古版」と呼ぶことにした。後世の Sa-skya 版については、例えば *Three Karchacks*, pp. 216.5–217.2 参照。
- (14) 現在までの情報を総合すると、それぞれのテキストは以下の場所に存在することが確認されている。

[*Sa skya legs bshad*]

- (a) Bihar Research Society, Patna: Jackson (1983a), pp. 6–7; No. 970 in Jackson (1989a) 参照。

[*sDom gsum rab dbye*]

- (a) Langtang (NGMPP L13/6) : Fushimi (1999), pp. 96–97 参照。

—蔵外文献木版印刷についての一考察—

(b) Phole (NGMPP L604/1) : Fushimi (1999), p. 97 参照。

[*Thub pa'i dgongs gsal*]

(a) Bihar Research Society, Patna: Jackson (1983a), pp. 6–7; No. 1166 in Jackson (1989a) 参照。

(b) Phole (NGMPP L604/3) : Fushimi (1999), p. 100 参照。

Thub pa'i dgongs gsal の所在については、Fushimi (1999), pp. 100–101, n. 20 も参照のこと。

- (15) Jackson (1983a), pp. 16–17; do. (1987), pp. 229–248; van der Kuijp (1984), p. 37 参照。
- (16) Kun-dga'-dbang-phyug の略伝については、A-mes-zhabs, *gDung rabs chen mo*, p. 259 参照。
彼は、Ngor-chen Kun-dga'-bzang-po (1382-1456) の弟子の一人として伝えられ、Ngor 派を支援した人物としても知られる。Mus-chen, *Chos rje rdo rje...*, p. 286.2–5; Go-rams-pa, *rJe btsun bla ma...*, p. 309.3–6; Dalai Bla-ma V, *Zab pa dang rgya...*, vol. 2 (kha), fol. 61b.5 参照。
- (17) 彼の略伝は、A-mes-zhabs, *gDung rabs chen mo*, pp. 258-259 に記録されている。彼もまた、Ngor 派のスポンサーの一人であったと伝えられる。Go-rams-pa, *rJe btsun bla ma...*, p. 309.3–6 参照。
- (18) Jackson (1983a), p. 7 参照。
- (19) Jackson (1983a), p. 17 参照。
- (20) Sa-skya 古版の *sDom gsum rab dbye* では、この場所に Sa-skya Paṇḍita の尊像が刻まれているので、パクパ文字による施主の名前の印刷というのは、Sa-skya 古版の *Thub pa'i dgongs gsal* のみの特徴かもしれない。Fushimi (1999), p. 97 参照。
- (21) Fushimi (1999), pp. 97–98 及び 103–105 参照。
- (22) 注 (17) 参照。
- (23) 注 (16) 参照。
- (24) gZhon-nu-rgyal-mchog の生涯については不明な点も多いが、Mus-chen は gZhon-nu-rgyal-mchog と 1413 年に mDog-gi-tsha-sna で会ったことが記録されている。Go-rams-pa, *rJe btsun bla ma...*, p. 301.1.3–4 参照。
- (25) Mang-thos, *bsTan rtsis gsal ba'i...*, pp. 222–223.
- (26) この人物の詳細は不明であるが、この時期に有力だった人物で bSod-nams-rgyal-mtshan の名を持つ者としては、Rin-chen-sgang Bla-brang 出身の bDag-chen Zha-lu-pa mThu-stobs-kyi-dbang-phyug bSod-nams-rgyal-mtshan-dpal-bzang-po (1408–1480) がいる。A-mes-zhabs, *gDung rabs chen mo*, pp. 299–301 参照。
- (27) 木版印刷に関するチベットと明朝の結び付きを示唆する記述は『明実録』などにも散見される。例えば、明の英宗に対して、1440 年 8 月チベット僧が木版印刷への支援を求めて明朝を訪れたが、その願いが受け入れられなかったという記録が残されている。『明代西藏資料』, p. 144: 八月乙亥 鳥思藏刺麻三竹藏ト等奏求布施大寺院食茶五萬斤 刊印版的達語録祖師秘訣 及於番漢地面往來遊方修行并勸合護持上不允。
- (28) Eimer (1996), p. 12 参照。
- (29) *Skyes bu gsum gyi lam rim rgyas pa khrid du sbyar ba : a detailed presentation of the Lam rim teachings of the Old Bka'-gdams-pa tradition* by Rje-btsun Gsan-ba'i-sbyin. New Delhi : Ngawang Topgye, 1979. TBRC (W14669) は、これを Bo-dong Paṇ-chen Phyogs-las-rnam-rgyal (1376–1451) の著作とする。確かにプリントコロフォン (pp. 594.3–609.8) には、me-rta という年号 (p. 606.3) と 'Jigs-med-grags-pa という人名 (p. 609.8) が記載されているが、詳細は不明。
Bottom margin に刻字担当者の名前が刻まれているのは、例えば同書 pp. 20, 40, 60 など。また、プリントコロフォンの p. 605.2 にも刻字担当者の名前が記録されている。

—蔵外文献木版印刷についての一考察—

- (30) Ehrhard (2000), p. 69 参照。宋代の木版本研究の成果が直接チベットの木版本研究に応用可能か否かの客観的な考察は欠けているものの、氏の研究は木版印刷プロジェクトに関する種々の重要な研究を含んでいる。
また、15世紀には、sNye-mo と E [-yul] に筆写と木版印刷の拠点があったとする記述 (p. 6) は非常に興味深いものであり、その可能性は充分有り得る。しかしながら、それを論証するには証拠が少なすぎるようにも思われる。
- (31) Fushimi (1999), pp. 97-98 参照。
- (32) わずか 10~20 年後に『Sa-skya 派全書』の Gong-dkar-ba 版が出版されているので、Sa-skya 古版が最初の『Sa-skya 派全書』であった可能性は高いとは必ずしも言えないであろう。Jackson (1983a), pp. 7-15; do., (1987), pp. 74-75; do., (1989b), pp. 10-18 参照。
- (33) Jackson (1989a), pp. 37 及び 135 参照。
- (34) 現存する *Sa skya legs bshad* は、fols. 1-6 を欠く。Jackson (1989a), p. 37 参照。
- (35) Jackson (1989a), p. 135 参照。
- (36) Jackson (1983a), pp. 7-16; do. (1987), pp. 74-75 および 229-232; do. (1989b), pp. 10-17 参照。
- (37) Zhu-chen, *Chos smra ba'i bande...*, p. 475.1. Jackson (1987), p. 233 参照。
- (38) Kun-dga'-grol-mchog, *Paṇḍita chen po shākya...*, p. 114.4-5; *Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 17, pp. 216.5, 219.7, 222.5, 226.1-2 参照。
- (39) 個々のプリントコロフォンは、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 17 の以下の箇所に収められている。*Abhisamayālamkāra*: pp. 213-216.6; *Pramāṇavārttika*: pp. 216.6-220.1; *Tshad ma rigs gter*: pp. 220.1-222.5; *sDom gsum rab dbye*: pp. 222.5-226.2.
- (40) その他の Sa-skya 派関連の初期の木版本については、van der Kuijp (1993a), pp. 150-155; do. (1993b) pp. 285-286 参照。
- (41) 木版情報は、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 15, pp. 693.1-695.4 参照。
- (42) 木版情報は、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 19, p. 749.5-7 参照。
- (43) 木版情報は、*Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 7, pp. 223.1-229.5 参照。
- (44) Jackson (1983b), pp. 10-11 参照。
- (45) この著作の重要性については、Jackson (1983b), pp. 16-18 参照。
- (46) *Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 7, pp. 226.7, 229.3-5; Kun-dga'-grol-mchog, *Paṇḍita chen po shākya...*, p. 140.1-2 参照。
- (47) *Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 1, pp. 5.5-6.2 参照。
- (48) *Collected Works of Shākya-mchog-ldan*, vol. 1, p. 6.3-4 参照。
- (49) Dhongthog Rinpoche, *A History of the Collected Works of gSer mdog Paṇ chen Śākya mchog ldan*, Thimphu, 1976, pp. 22.6-23.13.
- (50) *Collected Works of Shākya-rin-chen*, Thimphu, 1976, vol. 4, pp. 454.3-457.5 参照。
- (51) Kun-dga'-grol-mchog, *rNam thar zur 'debs...*, pp. 541.2-543.3 参照。Cf. Kun-dga'-grol-mchog, *Zhen pa rang grol...*, p. 331.1-4.
- (52) Khenpo Appey, *A Bibliography of Sa-skya-pa Literature*, New Delhi, 1987, pp. 69.11-72.9. Khenpo Appey の *A Bibliography of Sa-skya-pa Literature* と mKhyen-brtse'i-dbang-po の調査記録との関係については、Jackson (1991), pp. 220-221 参照。
- (53) 若し、Khenpo Appey による Shākya-mchog-ldan の著作リストのメインソースが、mKhyen-brtse'i-

—蔵外文献木版印刷についての考察—

dbang-po の調査記録であったならば、ブータンに伝わったものとは別の Shākya-mchog-ldan の著作集の存在を裏付けることになるだろう。

- (54) Jackson (1987), pp. 555–565 参照。
- (55) *Three Karchacks*, p. 217.4–5.
- (56) Kaḥ-thog Si-tu, *An Account of a Pilgrimage to Central Tibet during the Years 1918 to 1920*, Palampur, 1972, pp. 427.2–435.2.
- (57) Glo-bo mKhan-chen の *sDom gsum rab dbye* 註については、近刊の『密教学研究』所収の拙稿「Glo-bo mKhan-chen の *sDom gsum rab dbye* 註とその背景」参照。
- (58) Blo-gros-dpal-mgon, 'Jam dbyangs bsod nams..., p. 529.1–2. *Zhib mo rnam 'thag* には、最近、ネパールからコンピュータ印字本として出版されたテキストがあるが、プリントコロフォンは含まれていない。
- (59) Ngag-dbang-chos-grags, *Pod chen drug gi 'bel gtam*, p. 244.5–6. 尚、Glo-bo mKhan-chen の *sDom gsum rab dbye* 註に言及した研究に、Jackson (1983b), pp. 18–19; van der Kuijp (1985b), pp. 92–93 がある。
- (60) Jackson (1987), pp. 232–233 参照。
- (61) Jackson (1987), p. 233 参照。
- (62) Jackson (1987), p. 225, n. 29 参照。
- (63) Jackson (1987), pp. 234–235 参照。
- (64) 例えば、Phywa-pa の論理学書は、Sa-skya Paṇḍita の *Tshad ma rigs gter* と共に、チベット仏教論理学に多くの影響を与えたことが知られている。
- (65) *Thub pa'i dgongs gsal* (D), p. 24.4.3; *Tshad ma rigs gter* 自註, p. 172.2.1; *mKhas 'jug* (chapter 3), Jackson (1987), p. 277.16–17. Jackson (1985b), pp. 27 および 32, n. 39; (1987), pp. 66–67 参照。
- (66) Sa-skya Paṇḍita の *Grub mtha'* については、van der Kuijp (1985a), pp. 75–86; Jackson (1985), pp. 3–13 参照。
- (67) Glo-bo mKhan-chen, *bDe bdun mdo rnam bshad*, p. 72.4–6.
- (68) Jackson (1985), p. 8, n.2 参照。
- (69) Blo-gter-dbang-po, *rJe btsun bla ma thams cad mkhyen cing gziḡs pa 'jam dbyangs mkhyen brtse'i dbang po kun dga' bstan pa'i rgyal mtshan dpal bzang po'i rnam thar mdor bsod pa ngo mtshar u dumba ra'i dga' tshal*, *Lam 'bras slob bshad*, vol. 8, p. 141.3–6. Jackson (1997), p. 456 参照。
- (70) Jackson (1997), pp. 444–449 参照。
- (71) 同様の訂正箇所は、Dharamsara からの出版本の以下の箇所にも見られる：fols. 2b.6, 18b.6 (*), 39a, 65a.4 (*), 65b.1, 66a.2. しかし、それらがすべて校訂作業に反映された訳ではなかったようで、例えば、(*) で示した箇所は多田等観氏の請求本では訂正されていない。

付記

本稿をまとめるにあたって、京都大学大学院の加納和男氏には、Ehrhard (2000) を始めとする種々の文献の御教示を賜りました。また、NGMPP によって撮影された Glo-bo mKhan-chen の 2 つの *sDom gsum rab dbye* 註のマイクロフィルムを入手するにあたっては、ハンブルク大学の Klaus-Dieter Mathes 博士と龍谷大学の若原雄昭先生に御高配を賜りました。記してここに感謝致します。